

土木工事「数量集計表」（平成20年度版）

数量集計表様式説明書

平成20年4月版

目 次

1.基本的事項	1
2.数量集計表の構成内容	3
3.数量集計表について	4
3.1 工事工種体系との対応	4
3.2 行・列の挿入方法と合計欄	8
3.3 入力数字の数位	9
4.内訳数量表について	10
4.1 表示方法	10
4.2 表示内容	11
4.3 表示番号	12
5.別紙について	13
6.注意欄(印刷範囲外)について	14

数量集計表様式(平成20年度版)
説明書
(記入方法、書式の説明)

1.基本的事項

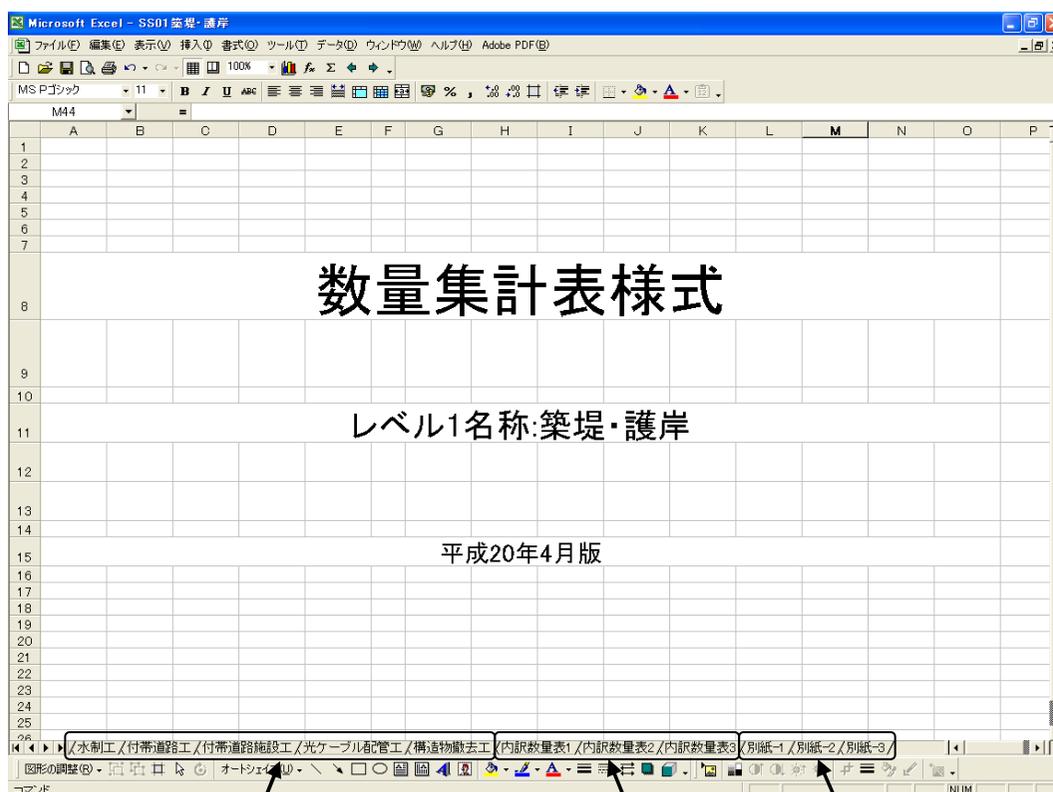
- (1) 設計数量の集計を行なう際には、本数量集計表の様式にならって数量集計表を作成して下さい。
- (2) 本数量集計表は、平成20年度版土木工事数量算出要領(案)と平成20年度版工事工種体系ツリーに対応しています。
- (3) 数量集計表が整備されている工事区分は、下表に示す33工事区分です。
- (4) 本数量集計表において、任意で区分を細分類する場合、列挿入、行挿入で対応して下さい。不要な項目は行削除等で消去しても構いません。
- (5) 本数量集計表の中で、工事区分、工種など該当する名称がない場合、体系ツリー図より類似のものを選び、オプションとして作成しても構いません。
- (6) 数量集計表を提出する際は、空欄を**非表示**として下さい。この場合、数量区分や備考欄の記載内容等、必要な情報が消えないよう注意して下さい。
- (7) 本数量集計表は、数量集計表の統一様式であって数量計算書を規定するものではありません。

数量集計表(平成20年度版)の対象工事区分(33工事区分)

No	レベル1(工事区分)	No	レベル1(工事区分)
1	築堤・護岸	18	道路改良
2	浚渫(河川)	19	舗装
3	樋門・樋管	20	鋼橋上部
4	水門	21	コンクリート橋上部
5	堰	22	橋梁下部
6	排水機場	23	トンネル(NATM)
7	河川維持	24	コンクリートシェッド
8	河川修繕	25	鋼製シェッド
9	突堤・人工岬	26	地下横断歩道
10	堤防・護岸	27	地下駐車場
11	突堤・人工岬	28	共同溝
12	海域堤防	29	電線共同溝
13	浚渫(海岸)	30	情報ボックス
14	養浜	31	道路維持
15	砂防堰堤	32	道路修繕
16	流路	33	仮設工(全工種共通)
17	斜面对策		

2.数量集計表の構成内容

- (1) 数量集計表は、各工事区分毎に1つのファイルで構成されています。
- (2) 各工事区分のファイルは、表紙、数量集計表、内訳数量表、別紙の4種類のシートから構成されています。
数量集計表のシートは、工事工種体系ツリーに対応して、各工事区分を構成する工種(レベル2)毎に用意されています。
- (3) 内訳数量表、別紙のシートは、各工事区分の数量集計表における数量算出項目、区分等の内容に応じて用意されています。



工種(レベル2)毎の数量集計表のシート

内訳数量表のシート

別紙のシート

3.数量集計表について

3.1 工事工種体系との対応

(1)レベル1～6との対応

数量集計表における階層は、工事工種体系の階層構成に準拠していますが、その工事工種体系では、事業の区分を除いて、工事の内容を下記の6つの階層(レベル)で表示することとしています。

・レベル1(工事区分) ・レベル2(工種) ・レベル3(種別) ・レベル4(細別) ・レベル5(規格) ・レベル6(積算要素)

このうち、レベル4(細別)は、工事を構成する基本的な単位目的物もしくは単位仮設物であって、単位とともに契約数量を示すレベルとして位置づけられています。

また、レベル5(規格)は、レベル4を構成する材料等の材質、規格ならびに契約上明示する条件等を示すレベルとして位置づけられ、契約図書である数量総括表では、原則としてレベル4と同行に記述されます。

従って、数量集計表は、各工事において対象となるレベル4と、これに付随して示すレベル5の組合せ毎で、数量を集計するものとしています。

さらに、レベル6(積算要素)は、レベル4(+レベル5)の価格算定上の構成要素であって、費用構成としての積算項目と積算上の最小構成単位としての歩掛項目から構成されています。数量集計表では、このレベル6に対応して、数量算出要領に記載される内容を基に、積算時に必要となる数量算出項目についての数量区分(数量算出条件)を示していますので、該当する区分毎に算出した数量を入力して下さい。

なお、数量集計表においては、レベル6という表示はしていません。

数量集計表において、工事工種体系の各レベル項目の表示箇所、内容を次頁に示します。

レベル1 [道路改良] ——— レベル2 擁壁工 ——— レベル3 場所打擁壁工 ——— レベル4 コンクリート]の場合の例

レベル1の表示(印刷時に出力されます)で、選択したファイル名に対応します。

レベル2の表示(印刷時に出力されます)で、選択したシート名に対応します。

レベル1(工事区分) 道路改良

レベル2(工種) 擁壁工

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分			合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙
場所打擁壁工			式											
	コンクリート	[コンクリート規格]	m3	m3	合計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
					底版			0.0						
					壁			0.0						

レベル3の表示 レベル4の表示 レベル5の表示

レベル6の表示

(2) レベル5の表示

レベル5(規格)について、その区分の細分があらかじめ分かっているものや、ほとんどの場合、複数の区分で用いられるようなもの(鉄筋径等)は、あらかじめ具体的に表示しています。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙
	鉄筋	[鉄筋材料規格、鉄筋径] SD295A D10 D13 D16	t	kg	合計	0	0	0	0	0	0	
						0						
						0						
						0						
						0						
						0						

あらかじめ区分が分かっている場合は、具体的に表示しています。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙
	石積取壊し	[形状寸法] 練積 控35~45cm 空積 控45cm未満 空積 控45~60cm 空積 控60~90cm	m2	m2	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0						
						0.0						
						0.0						

あらかじめ区分が分かっている場合は、具体的に表示しています。

(3) 積算用単位及び数量計算用単位

単位については、工事工種体系で規定される積算用単位を表示しているとともに、これとは別に設計時の数量計算用単位を表示しています。特に、レベル4での両者の数量単位は、通常は同じ場合が多いですが、鉄筋重量や鋼材重量等のように異なる場合があります。本数量集計表への数量の入力は、数量計算用単位に基づいて行いますが、このために、上記の両者の単位が異なる場合は注意確認を促すために、数量計算用単位を赤字で表示しています。

また、同様に、積算時において使用する数量については、単位の違いによって数量表示が異なっていることに注意して下さい。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	T1	T2	T3	T4		内訳数量表別紙
場所打擁壁工			式									
	鉄筋	[鉄筋材料規格・径] SD295A D10 D13	t	kg	合計	6,340	1,340	5,000	0	0	0	
						6,340	1,340	5,000	0	0	0	
						0						

赤字で表示

積算時 6.340t

設計時(数量計算) 6,340kg、
積算時に6,340tとならぬように注意！

3.2 行・列の挿入方法と合計欄

(1)行・列の挿入

本数量集計表では、数量区分(行方向)や工区別や部位別等の区分(列方向)を任意に細分や追加をすることができます。
 この場合、行挿入及び列挿入で対応して下さい。

ただし、行挿入や列挿入を行う場合、数量の合計計算式や罫線等の表示の不具合を防止するために、下記のとおり、挿入する位置に注意して下さい。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙
根固めブロック工			式									
	根固めブロック製作	[ブロック種類]	個	個	合計	0	0	0	0	0	0	2-18
						0						
	根固めブロック据付	[ブロック種類、 ブロック購入の有無]	個	個	合計	0	0	0	0	0	0	

行挿入が可能な位置 (行挿入)

この位置での行挿入は避けて下さい。

この位置での列挿入は避けて下さい。

列挿入が可能

行挿入の場合の例

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区	C地区	D地区	E地区	内訳数量表別紙
根固めブロック工			式									
	根固めブロック製作	[ブロック種類]	個	個	合計	400	40	60	100	100	100	2-18
		Aタイプ				320	25	50	70	85	90	
		Bタイプ				80	15	10	30	15	10	2-18'
	根固めブロック据付	[ブロック種類、 ブロック購入の有無]	個	個	合計	0	0	0	0	0	0	

挿入した行の合計のセルに計算式を入力して下さい。

(2) 合計欄の表示

合計欄の表示位置(行・列位置)は、任意の行・列挿入(ただし、(1)の注意事項を遵守)した場合でも、合計計算式に不具合を発生させないために、行頭及び左端列に設けています。

工区の追加の時に合計欄の位置が変わらない

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区	C地区	D地区	………
作業土工			式	m3							
	床掘り		m3	m3	合計	530.0	100.0	140.0	150.0	140.0	0.0
		片切部			砂・砂質土	120.0	10.0	50.0	10.0	50.0	
					粘性土	120.0	20.0	40.0	20.0	40.0	
					礫質土	120.0	30.0	30.0	30.0	30.0	
					岩塊・玉石	120.0	40.0	20.0	40.0	20.0	
					軟岩1	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	

区分の追加が必要(不要)なときに列挿入(列削除)によって合計欄の位置が変わらない

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区	C地区	D地区	E地区
作業土工			式	m3							
	床掘り		m3	m3	合計	460.0	60.0	120.0	60.0	120.0	100.0
		片切部			砂・砂質土	140.0	10.0	50.0	10.0	50.0	20.0
					粘性土	170.0	20.0	40.0	20.0	40.0	50.0
					礫質土	150.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0

「岩塊・玉石」・「軟岩1」の区分を削除した。合計欄のセル式は壊れない。

工区を追加した。土質毎の小計は、挿入部分を反映している。

なお、数量算出要領の規定により、1つの対象物に対して2通り以上の数量を求める場合は、列方向(縦方向)の合計欄(式)は不要なので「-」表示としています。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分			合計	A地区	B地区	C地区	D地区	内訳数量表別紙
矢板工			式	m										
	鋼矢板	[鋼矢板種別、鋼矢板材質、鋼矢板型式、鋼矢板長さ]	枚	m	合計			-	-	-	-	-	-	
				枚	[打込長又は圧入長]	粘性土 (最大N値=)	延長	1,200	250.0	350.0	250.0	350.0		
				kg			枚数	3,000	625	875	625	875		
							質量	36,000	7,500	10,500	7,500	10,500		

3.3 入力数字の数位

数量算出要領において、算出すべき数量の数位が規定されているものに関しては、数位の情報をセルに持たせ、青字で表示しています。

レベル3	レベル4	レベル5	積算用単位	数量計算用単位	数量区分			合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙
アスファルト舗装工			式	m2										
	下層路盤	[路盤材種類、路盤材規格仕上がり厚]	m2	m2	合計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
					車道			0.0						
					路肩			0.0						
					歩道			0.0						

青字で表示

4.内訳数量表について

4.1 表示方法

レベル4(細別)で数量をくくっているものの中で、細別の中身が細分化されているもの、単位当たりの数量におきかえているものなどがあります。このような場合、内訳数量表が用意されています。

レベル4名称に色づけしているものは、内訳数量表が設定され、レベル4内容について別シートで、数量の内訳を詳細に入力する様式を設けています。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙
根固めブロックエ			式									
	根固めブロック製作	[ブロック種類]	個	個	合計	0	0	0	0	0	0	2-18
						0						
						0						
	根固めブロック据付	[ブロック種類、 ブロック購入の有無]	個	個	合計	0	0	0	0	0	0	

レベル4名称に色づけしているもの

2-18 根固めブロック製作 数量表

ブロック規格:

項目	規格	数量区分	単位	数量		備考
				全体	1個当り	
コンクリート	[コンクリート規格]		m3		#DIV/0!	
型枠			m2		#DIV/0!	
鉄筋	SD295A	D10	kg		#DIV/0!	
		D13	kg		#DIV/0!	
		D16	kg		#DIV/0!	

別シート(内訳数量表2)を選択する。
1-〇〇であれば内訳数量表1を選択する。
2-〇〇であれば内訳数量表2を選択する。

4.2 入力方法

内訳数量表には、原則として、下記のように各項目・数量区別毎にその全体数量及び単位数量を入力して下さい。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区別	合計	T1	T2	T3	T4	内訳数量表別紙
防止柵工			式	m							
	転落(横断)防止柵	[柵高]	m	m	合計	167.0	167.0	0.0	0.0	0.0	
					土中建込用	167.0	167.0				2-3
					コンクリート建込用	0.0					

内訳数量表

2-3(1) 転落(横断)防止柵 数量表

入力する欄

柵高:

項目	規格	数量区別	単位	数量		備考
				全体	1m当り	
床掘		粘性土	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
		砂・砂質土	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
		礫質土	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
		岩塊・玉石混じり土	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
		軟岩1	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
		軟岩2	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
		中硬岩	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
埋戻し	埋戻し種別D 土砂	硬岩1	m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
			m3	#DIV/0!	#DIV/0!	
残土処理			m3	#DIV/0!	#DIV/0!	

入力する欄

自動計算欄

数量区別	単位	数量		備考
		全体	1m当り	
粘性土	m3	150.0	0.9	
砂・砂質土	m3	200.0	1.2	
礫質土	m3	120.0	0.7	
岩塊・玉石混じり土	m3	80.0	0.5	
軟岩1	m3	100.0	0.6	
軟岩2	m3	80.0	0.5	
中硬岩	m3	60.0	0.4	
硬岩1	m3	40.0	0.2	
埋戻し種別D	土砂	m3	0.0	
	岩塊・玉石混	m3	0.0	
	m3		0.0	

1-10 タイロッド・腹起し 数量表

タイロッド径:

項目	規格	数量区別	単位	数量		備考
				全体	1式当り	
主部材						
タイロッド			kg	5600	←入力	
腹起し			kg	2500	←入力	
主部材計			kg	8100		
副部材(B)			kg	324		主部材重量×0.04
合計			kg	8424		

← 「一式」計上のものは、すでに入力欄に「1」が記入されています。

(注)

1つの内訳数量表内で行・列を挿入しても、自動計算欄の計算式の整合は図られませんが、別の内訳数量表の行や全体内容を複写して使用する場合は、計算式の整合が図れていませんので、計算式を複写後に修正する必要があります。

4.3 表示番号

内訳数量表には、2-3(1) 転落(横断)防止柵 数量表 といったように番号が付けられていますが、これは、数量集計表から対応する内訳数量表を見つけるために、暫定的につけたものであり、内訳数量表は、数量集計表の複数箇所に対応することがあります。そのため、数量集計表と内訳数量表が1対1対応となるように、内訳数量表の番号を修正する必要があります。

レベル1 橋梁下部

レベル2 橋台工

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計					内訳数量表別紙
橋台躯体工			式								
	基礎材	[碎石規格、敷厚]	m2	m2	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0					
						0.0					
	均しコンクリート	[コンクリート規格、敷厚]	m2	m2	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0					1-9

レベル1 橋梁下部

レベル2 RC橋脚工

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計					内訳数量表別紙
橋脚躯体工			式								
	基礎材	[碎石規格、敷厚]	m2	m2	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0					
						0.0					
	均しコンクリート	[コンクリート規格、敷厚]	m2	m2	合計	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
						0.0					1-9

複数箇所に対応している

1-9 均しコンクリート 数量表

コンクリート規格・敷厚: m2当り

項目	規格	数量区分	単位	数量		備考
				全体	1m2当り	
コンクリート	[コンクリート規格]		m3		#DIV/0!	
型枠			m2		#DIV/0!	

数量集計表と内訳数量表が1対1対応となるように、内訳数量表の番号を付け直す必要があります。

5.別紙について

数量集計表の内訳数量表、別紙欄に別紙-〇と表示されているものは、数量算出要領の規定に基づいて別紙で数量内訳を詳細に示す必要があるものでその数量の入力様式が別紙に設定されています。

なお、別紙は、別紙-1 といったように番号が付けられていますが、これは、内訳数量表と同様に数量集計表から対応する別紙を見つけるために、暫定的につけたものであり、数量集計表の複数箇所に対応するような場合は、数量集計表と別紙が1対1対応となるように、別紙の番号を修正する必要があります。

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区				内訳数量表別紙	備考	注意
既製杭工			式	本										
	既製コンクリート杭	[杭種別、杭径、杭長さ]	本	本	合計	0	0	0	0	0	0			
					パイルハンマ工	0						別紙-1		
					中掘工	0						別紙-1.4		

既製コンクリート杭(RC杭、PHC杭、SC杭)

別紙番号に基づき、該当する別紙のシートを選択する。

工種	種別	杭径	杭 1 本 当 り																		杭 総 本 数					
			杭 長															杭 頭 処 理								
			上 杭					中 杭					下 杭					全 長	鉄 筋 量	中 詰 リ ー ト		中 詰 コ ン ク リ ー ト 種 類	取 壊 コ ン ク リ ー ト			
			RC		PHC		SC	RC		PHC		SC	RC		PHC		SC									
1種	2種	A種	B種	C種	-	1種	2種	A種	B種	C種	-	1種	2種	A種	B種	C種	-									
			m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	kg	m ³	m ³	本		

- 注) 1.継ぎ杭の場合は合わせて1本として算出する。
 2.同種の杭であっても杭径、長さごとに集計する。
 3.杭頭鉄筋の鉄筋量は鉄筋規格・径別に集計する。
 4.橋梁については、各橋台・橋脚ごとに集計する。
 5.掘削残土については別途算出する。
 6.吊型枠及び砕石又は砂が必要な場合別途算出する。

6.注意欄(印刷範囲外)について

集計表様式の様式範囲外の「注意」欄には、集計作業にあたっての注意事項を記入していますので提出物として打ち出す場合、注意欄は印刷する必要はありません。

印刷範囲外

レベル3(種別)	レベル4(細別)	レベル5(規格)	積算用単位	数量計算用単位	数量区分	合計	A地区	B地区		内訳数量表別紙	備考	注意
	コンクリート	[コンクリート規格]	m3	m3	合計	0.0	0.0	0.0	0.0			
					底版	0.0						
					壁	0.0						
					壁高欄	0.0						
	鉄筋	[鉄筋材料規格・径]	t	kg	合計	0	0	0	0			
		SD295A D10			0							
		D13			0							
		D16			0							
		SD345 D10			0							
		D13			0							
		D16~D25			0							
		D29~D32			0							
		D35			0							
		D38			0							
		D41			0							
		D51			0							
		SR235 φ9			0							
		φ13			0							
		φ16~25			0							

※切梁のある構造物、地下構造物、橋梁用床版、場所打杭用かご筋がある場合はその区分ごとに算出する。

※1工事に2つ以上の規格・仕様を適用する場合は、1工事当たりの全体数量を算出する。

※トンネル内の鉄筋組立作業、勾配が1:1.5より急勾配での法面作業がある場合は、その数量を区分して算出する。

注意事項